

Universal MaaS～誰もが移動をあきらめない世界へ～

2019年度の実証実験を引き継ぎ、Universal MaaSのコンセプトに従って移動躊躇層(※)が移動に抱えている課題を実証実験を通じて、お客さまとサービス提供者双方の視点から解決し、新たな移動需要を喚起する。

※何らかの理由により移動を躊躇している方々。今年度は杖・車いす利用者を対象に実施。

| 協議会の構成員 | | 【幹事】全日本空輸、京浜急行電鉄、横須賀市、横浜国立大学 | | 取組イメージ | |
|-----------|--|---|---|---|--|
| 地域課題 | <ul style="list-style-type: none"> ● 介助やサポートを必要としているお客さまへの対応が事業者ごとに大きく異なっており、また、各交通事業者や施設管理者との連携方法が定まっていないため、公共交通利用をはじめとした自律的な移動が不便であること（全国的な課題ではあるが、まずは特定地域を対象を絞って課題解決方法を見極める） | |  <p>お客さま向け「ユニバーサルお出かけアプリ」画面イメージ</p> <p>自律的な移動をサポートするラストマイル地図・ナビ</p> | | |
| 取組の概要 | 期間 | 2020年12月1日～2021年2月28日 | | <p>アプリ利用による実証実験の様子（イメージ）</p>  | |
| | エリア | 地方空港から羽田空港、京急電鉄を経由した横須賀市までの移動を想定し、横須賀市内を中心に実証実験を実施 | | | |
| | MaaSシステム | お客さま用アプリ「ユニバーサルお出かけアプリ」、サービス提供者用アプリ「ユニバーサルサポートアプリ」を独自に構築 | | | |
| | 交通サービス | <ul style="list-style-type: none"> ● 航空/陸上の公共交通領域だけでなく、出発地から目的地までを範囲とした車いすユーザ向けdoor to doorナビの提供 ● 自分に合ったルートを選択・保存し、旅程管理や手配状況確認を可能とする情報の提供 ● 介助やサポートを必要とするお客さまが希望する支援の内容や自身の位置情報をリアルタイムに事業者と共有 | | | |
| 交通以外のサービス | <p>以下は主な例</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 一般社団法人WheelLogが保有する車いす走行ログ、バリアフリースポット情報を含めた地図・ナビ機能の提供 ● 株式会社ミライロのミライロIDアプリ（電子版障害者手帳）との連携や、大日本印刷株式会社のMay iiアプリ（助け合いアプリ）との連携 ● 株式会社NTTドコモのモバイル空間統計（混雑情報）掲載 | | <p>検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アプリ運用に伴う高額な構築費・運用費が課題。お客さま向けアプリは、Web形式での提供など、コストを低減した形での運用を今後検討。 ● 被検者アンケートにて、75%の車いす利用者が『当アプリによって移動時の「不安」は軽減される』と回答。一方、機能過多に伴う操作の複雑さが課題となったため、一定の精査が必要。 ● 構築したアプリをベースに事業者側の現場課題抽出や業務分析、有効機能を把握。各社の業務オペレーションや課題が異なるため、統一アプリでの運用ではなく代替手段を検討。 | | |
| 検証内容 | <ul style="list-style-type: none"> ● セキュリティやシステム負荷等システムの有無の検証 ● お客さま向けアプリによって移動躊躇層の移動体験向上の検証 ● 事業者向けアプリによって現場係員の業務体験向上の検証 | | <p>今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実証実験によって得られた知見をもとに、杖・車いす利用者の移動に必要なバリアフリー情報や介助サービスを整理。既存MaaSシステム上に、これら情報を段階的に社会実装していく。 ● 車いす利用者だけでなく、視覚・聴覚障害・高齢者・訪日外国人などにも対応したユニバーサル情報の実証実験ならびに社会実装を段階的に実施。 ● 事業者向けに関しては、統一アプリ構築ではなくデータ関係に重きを置いて実証を進める。 | | |